

小・中学校特別支援教育研究部

I 研究主題

通常学級の中で理解を促す合理的配慮の研究

II 主題設定の理由

「合理的配慮」とは、2010年の中央教育審議会において定義され、学校現場においても、学習場面の中で必要とされているものである。用語自体は新しいものであるが、実際には、これまでの特別支援教育の中で日常的に行われてきた視覚的優位の特性を生かしたツールを用いる活動であったり、注意持続が困難な児童生徒においては、切り替えの多い授業であったりといった個々のニーズに応じた支援や配慮と同じものと考えられる。こうした授業形態は、個に寄り添った学習支援として有効であるとされてきたが、近年では、個に応じた特別支援教育の手法は、実は誰もが必要としている支援であるという考えからなる、教育のユニバーサルデザイン化が注目されてきている。特別支援教育の手法を通常学級で活用する研究を行った小貫は、「特に『刺激量の調整』や『構造化』という視点が授業に「参加」を保障することに成功した」（2013）とし、授業の「参加」の次なるステージにあるものは、教科教育における知見の「理解」であると考え、これを「授業のユニバーサルデザイン化」という新しい領域に位置付けた。

小学校の通常学級には、配慮の必要な児童が約6.5%いるとされている（文部科学省2014）。これを30人学級で考えた場合、特別な支援を要する児童が2人は在籍することになる。こうした児童を支援するにあたり、特別な教材やテクノロジーといったツールの利用は欠かせないものの一つである（近藤2013）が、それらは、必ずしも他の児童にも必要なものとは言えないため、「一人だけを特別扱いするような不公平なことはできない」といった現場の声にぶつかり、これまでの利用は難しかった。

昨年度、本研究部では、言語活動を充実させ、主体的な学習に取り組む国語科の研究に焦点を当て、特別支援学級での授業実践を行った。その結果、配慮を要する児童生徒にとって、視覚に訴える教材の活用は、思考や発言といった授業理解を促すことが小中学校ともに示唆された。中学校における作文指導では、それぞれの生徒の特性に合った合理的な配慮を活用した結果、表現力が伸びたことを示した。こうした特別支援学級で活かせる合理的な配慮は、国語科に限らず、より多くの教科においても効果があると考えられる。特別な配慮を要する児童生徒が通常学級に多く在籍していることを考えると、こうした合理的な配慮は、通常学級でも益々重要になってくるであろう。

そこで、本研究では「通常学級の授業の中で理解を促す合理的な配慮」に焦点を当て、すべての児童生徒が主体的に学び、理解を深められるよう、特別支援学級の配慮を活かした通常学級における合理的配慮を見出すことを目的とした。

III 研究の内容

1 研究の方向性

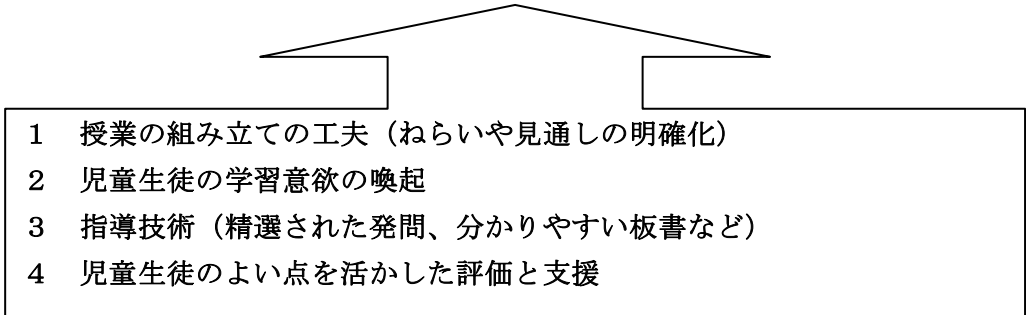
(1) 「合理的配慮」についての共通理解

はじめに、**合理的配慮**とは何かについての理解を深め、本研究部のテーマ「**通常学級の中で理解を促す合理的配慮の研究**」を定めた。

文部科学省の特別支援教育の在り方に関する特別委員会（平成24年1月）における**合理的配慮**とは、「障害のある子どもが、他の子どもと平等に『教育を受ける権利』を享有、行使することを確保するために学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」と定義されている。（障害者の権利に関する条約「第2条 定義」参考）

教員は、「授業が勝負」とよく言われる。つまり、「よい授業」をすることが教員に必要な資質の一つである。そこで、「合理的配慮」と並行し、「よい授業」とは何かについても改めて確認した。

その結果、通常学級における「よい授業」とは、下の**4つ**を満たすものと定めた。

- 
- 1 授業の組み立ての工夫（ねらいや見通しの明確化）
 - 2 児童生徒の学習意欲の喚起
 - 3 指導技術（精選された発問、分かりやすい板書など）
 - 4 児童生徒のよい点を活かした評価と支援

このような考えに基づき、本研究部では、授業実践を通し、すべての児童生徒が主体的に学び、理解を深められるよう、「通常学級の授業の中で活かせる合理的配慮」にはどのようなものがあるかに焦点を当てて追究することとした。なお、授業実践では、東京学芸大学の小笠原恵教授を招聘し、授業研究会を設けた。

- (2) 特別支援学級における授業や教育環境を参観することにより、通常学級の授業に活かせる合理的配慮とは何かを深めていく。
- (3) 通常学級における研究員相互の授業を見合う中で、小笠原教授にご教示いただいたことをもとに、さらに合理的配慮に重点を置いた授業改善を行う。
- (4) 児童生徒の日々の生活の場である教室環境においても、有効な合理的配慮を取り入れることにより、児童生徒がどのように活動しやすいか、また、どのように変容していったかを引き続き観察していく。

IV 実践例

1 A中学校 特別支援学級における作文指導（6月22日）

特別支援教育からの発信として、昨年度の研究を市内に広めるために、授業研究会を実施した。「言語活動の充実」をテーマに、国語科における表現力の育成を目指した作文指導を行った。

(1) 題材名

「素敵な作文に仕上げよう ～新しい学年になって楽しかったこと～」

(2) 題材設定の理由

①題材観

普段の国語の授業の中で感じる、生徒たちが興味・関心の高い教材とは、

- | | | |
|---|---|------------|
| ① | ▪ | 体験したこと |
| ② | ▪ | アニメなど好きなもの |
| ③ | ▪ | ビジュアルなもの |

などである。本学級（通称8組）では、体験活動をとっても重視している。

学校行事のほか、8組だけの行事や他校との交流行事もあり、それに向けて時間をかけ、準備や練習に取り組んでいる。本番に臨んだ後は、事後指導として作文学習を行っているが、これらの活動は、従来、生活単元学習や総合的な学習として扱ってきた。生徒にとって体験活動は、興味・関心の高い題材の1つである。そこで、この体験活動を切り口として、国語科の中でも計画的・継続的に指導することにより、「書く力」を高めていくことができるのではないかと考えた。また、書く活動を通して、国語への関心・意欲・態度や話す力、言語についての知識・理解も同時に高めていきたい。

②指導観

これまで本グループでは、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」「どんな気持ち」のカードを黒板に掲示するという**合理的配慮**を行い、一人一人に発表させる練習を重ねてきた。その結果、視覚的に捉えられたことや友達の表現から、語彙の範囲を少し広げることができ、文を書く意欲も高まってきた。

今回は、「写真を見ながら書く」という**合理的配慮**を行う。写真を見ることにより、楽しかった思い出を再度甦らせ、表現したい場面や内容が広がるであろう。そして、自分なりの言葉で呟き、その表現法を支援することにより、思い出を言葉で共有することができるであろう。前述のように、言語表現について課題のある生徒たちも、個別指導によって1枚の作文を完成させ、達成感が得られるものと思われる。

(3) 指導計画

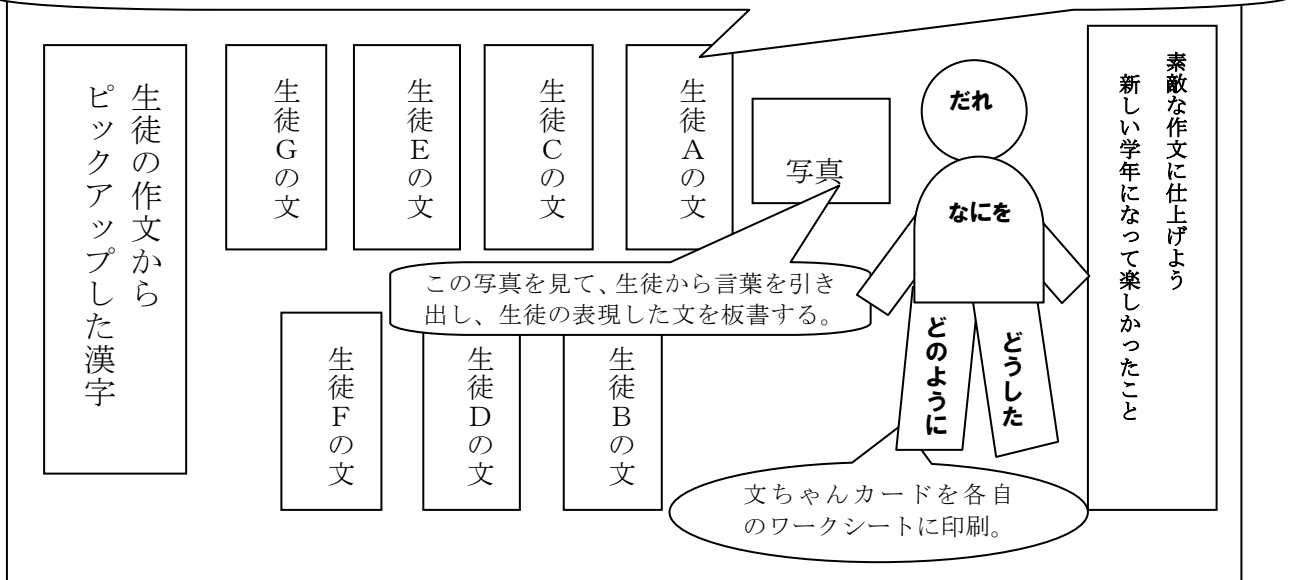
	主な学習活動	時数
1	数枚の思い出の写真を見て、どんな場面か、どんな気持ちだったかを各自発表し合い、その表現法を学習する。また、どの場所、場面が一番心に残り、作文に書き加え、修正したいかを各自決定する。	1
2	それぞれが書く思い出に残った場面の写真を収集し、選んだ写真をワークシートに貼り付けていく。状況を簡単にメモしておく。	1
3	ワークシートに貼り付けた写真を見て、文に組み立て、作文にする。(本時)	1
4	書きたい順番にワークシートを並べ替えて、ワークシートを見ながら原稿用紙に書く。	1
5	作文を清書する。仕上がった作文を声に出して読み、発表に向けて読む練習をする。	1
6	作文発表会をし、感想を述べ合う。	1

(4) 展開

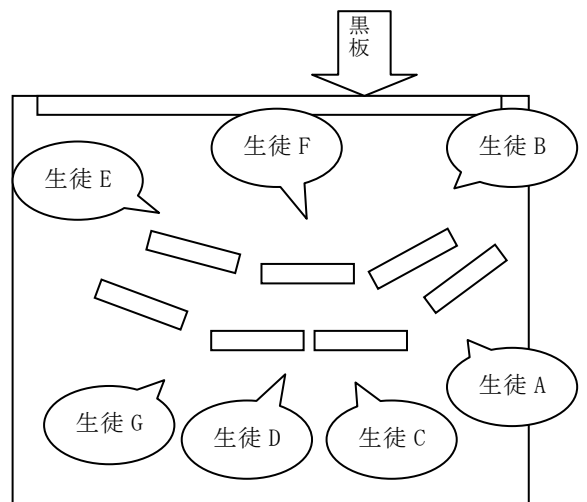
時間	学習内容	指導上の支援・留意点	教材・教具
導入 (3分)	1 本時の課題を知る。		
素敵な作文に仕上げよう ～新しい学年になって楽しかったこと～			
展開 (40分)	2 1枚の写真を見て、どんな文ができるか考え、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1枚の写真を掲示していき、興味・関心を喚起するとともに全員に発言を促す。 ・できるだけ生徒から言葉を引き出し、生徒の表現した文を板書していく。その都度、正しい表現法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 (黒板掲示用の写真)
10分	◎：この写真から、どんな文を作りますか。	◎ 課題に興味関心が持てたか。 (関心・意欲・態度)	<ul style="list-style-type: none"> ・文ちゃんカード (黒板掲示用)
25分	3 写真を貼ったワークシートを見ながら、文を作る。 個別	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の作った文を写真のまわりに1つ1つ記入していく。 ・文ちゃんカードを使用し、その中に、「いつ、誰が何をどうした」か、どんな音が聞こえたか、何が見えたかななどを付け加えていく。 ・表現法がわからない生徒には、生徒のつぶやきを拾い、生徒との対話を通して支援する。 ・写真1枚につき、1つの文章を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を貼ったワークシート)
「誰が、何をしているところですか？」 「どんな気持ちでしたか？」 「他に何が見えますか？」 「どんな音が聞こえましたか？」 「主語を変えた文も作ってみましょう。」		◎ 教師の言葉がけを聴き、適切な文を書くことができたか。 (書く) ◎ 語彙の範囲を広げることができたか。(言語)	
5分	4 仕上げた文を読む練習をする。 個別	◎ 自分が書きあげた作文を読むことにより、思い出の場面を再確認し、理解することができたか。(読む)	
	5 仕上げた文の発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人良かったところを称賛する。 ・自分が頑張ったところや友達の良かったところを発表する。 ◎ 友達の記事を聞いてよかったところや自分自身についての振り返りを発表することができたか。(話す・聞く)	

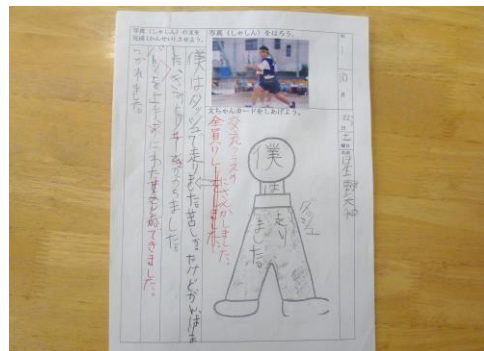
<p>まとめ (7分)</p>	<p>6 生徒の作文の中から身につけたい漢字をピックアップし、板書する。それを漢字プリントに視写する。</p> <p>7 本時の振り返りをし、発表する。</p>		<p>・漢字練習 プリント</p>
---------------------	--	--	-----------------------

生徒のつづやきを拾いながら、各自が表現したい文を板書する。(合理的配慮)



<p>写真の文章を完成させる。</p>	<p>写真を貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>	<p>NO.</p>
<p>文ちゃんカードを仕上げる。</p>	<p>だれ なにを どうしよう どうした</p>	<p>月</p>
<p>←</p>		<p>日</p>
		<p>曜日</p>
		<p>名前</p>





・授業研究会参加者の感想より

- ・文ちゃんカードは小学校でも通じそうなアイテムであり、さっそく実践してみようと思いました。
- ・文ちゃんカードも段階があり、メリットとデメリットがあり、何をねらいとするのか、何に配慮しなければならないのか考えながら使っていかうと思います。
- ・体験がなく、他人のことや単なるカットだと子どもの興味は薄く、食いつきません。取り組むためには、体験が大切であり、写真の活用は本当に効果的だとやりながら思っています。
- ・「視覚化」は通常学級でもとても有効であり、必要なことだと改めて感じたので、ぜひ活かしたいと思います。
- ・普段あまり見ることのない特別支援学級の授業を見ることができ、通常学級でも取り入れたと思うことが多くありました。穏やかな話し方や子どもから書きたいことを引き出せる関わり方など、やってみようと思いました。

2 B小学校 通常学級における特別支援学級のアイテムを取り入れた授業

(9月10日)

【学級 A 小学校通常学級】

(1) 単元名

「ひっ算のしかたを考えよう」

(2) 単元目標

- ・既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実に

できるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばす。

- ・筆算形式による3位数+1、2位数、3位数-1、2位数の計算の仕方について理解する。

(3) 指導計画 (略)

(4) 本時の学習目標(2/11)

十、百の位への繰り上がりや、百の位への波及的繰り上がりの筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

(5) 展開

学習内容 ・予想される児童の反応	○指導 ◎合理的配慮 ※評価<評価の方法>	時間
<p>1 本時の学習予定を確認する。</p> <p>2 既習事項の確認をする。 ○絵を見ながら式を考え、ひっ算のやり方を復習する。 76+8 76+50 ・今までやったことがあるからできる。 ・簡単。</p>	<p>◎構造化カードで本時の見通しを持たせる。 ◎教科書を閉じて進める。</p> <p>○確認として、位をそろえること、繰り上がりを書く位置、百の位を書く位置を取り上げる。 ○◎既習事項から本時の問題と課題に繋げる。スモールステップ ◎視覚化することで、興味・関心をひく。</p>	6分
<p>3 課題を把握する。 76+58 のひっさんのしかたを考えよう。</p> <p>4 課題を考える。 ○前時との違いを考える。 ・さっきの答えよりも大きくなりそう。 ・繰り上がりが2回ある。 ・一の位も十の位も繰り上がる。 ○課題をノートに書き、全員で声に出して読み、題意をとらえる。 くり上がりが2回ある、ひっさんのし方を考えよう。</p>	<p>○76+50と比べ、見積もりを立てさせる。 ○位ごとの計算に注目させ、前時との違いに気づかせる。(言語活動) ◎全員で声に出して読ませ、意識させる。</p>	5分
<p>5 解決する (1)自力解決 ○ノートに考え方を書く。 ・筆算で書く。 ・位ごとに式で書く。</p>	<p>○◎筆算、式、図、文章など、どんなやり方でも良いことを伝える。 ◎戸惑う児童には、ヒントカードを渡す。</p>	20分

<p>・文章でまとめる。</p> <p>(2)発表する ○異なった考え方をいくつか取り出し、考え方を発表させる。</p> <p>6 練習する ○練習問題に取り組む。</p> <p>7 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どのくらいでも10そろったら、つぎのくらいへくり上がる。 </div>	<p>※筆算の仕方を考えることができる。<観察></p> <p>◎児童の考えをいくつか取り出す。 焦点化</p> <p>※考え方について説明することができる。(言語活動) <発表></p> <p>◎早く解き終わる児童には追加問題を用意する。戸惑っている児童には、個別指導やヒントカードを渡す。</p> <p>○答え合わせでは、やり方を順序だて、繰り上がりの位置や位を確認しながら行う。</p>	12分
<p>8 本時の振り返り ○めあてが達成できたか、挙手で振り返る。</p>		2分

(6) 板書計画

$\begin{array}{r} 76 \\ + 8 \\ \hline 83 \end{array}$	もんだい	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> $76 + 58$のひっさんのし方を考えよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> くり上がりが2回ある、ひっさんのし方を考えよう。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> $6 + 8 = 13$ $70 + 50 = 120$ $13 + 120 = 133$ </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <table style="border-collapse: collapse; margin: auto;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">百</td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">十</td> <td style="padding: 0 5px;">一</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"></td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; text-align: center;">7</td> <td style="padding: 0 5px; text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"></td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; text-align: center;">+</td> <td style="padding: 0 5px; text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; text-align: center;">1</td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 0 5px; text-align: center;">3</td> <td style="padding: 0 5px; text-align: center;">3</td> </tr> </table> </div> </div>	百	十	一		7	6		+	5	1	3	3	れんしゅう	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 86 \\ + 67 \\ \hline \end{array}$ </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 48 \\ + 94 \\ \hline \end{array}$ </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 75 \\ + 36 \\ \hline \end{array}$ </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 69 \\ + 47 \\ \hline \end{array}$ </div> </div>
百	十	一														
	7	6														
	+	5														
1	3	3														
		まとめ		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どのくらいでも10そろったら、つぎのくらいへくり上げる。 </div>												

(7) 評価

- ・筆算の仕方を考えることができる。(観察)
- ・考え方について説明することができる。(発表)

(8) 授業研究会における振り返り

指導・講評

良かった点	課題 (→次の授業へのフィードバック)
○構造化カード使うことで、次に何を	○時間を具体的に示す。

するのがわかる。

○穏やかな声掛けをすることで刺激が減る。

○優しい言葉がけがタイミングよくなされていてよい。

○集中力が切れる瞬間に声をかける。

○練習問題の追加問題があったことで意欲につながった。

→タイマーなどの活用

○課題の中で要求されることが多いと難しい。

→簡単な言葉で1つに絞る。

○時間を具体的に示す。

→タイマーなどの活用

→「そろそろ…」はNG

「あと〇分です」「〇分までです」がOK

○正解なのかどうか、教師に評価してほしい。

○児童の活躍する場が少ない。

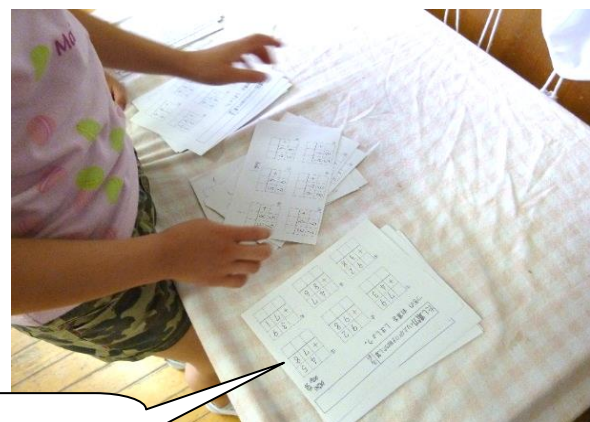
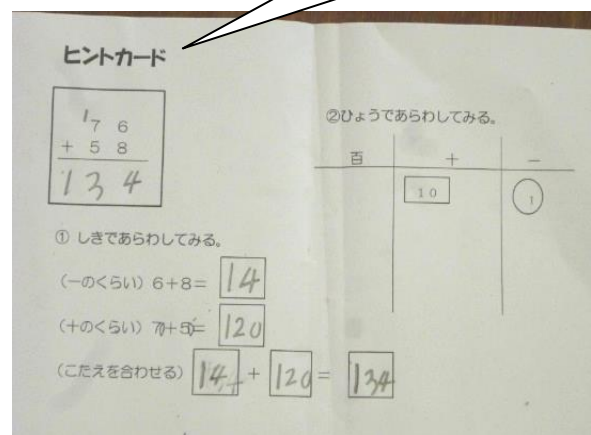
→児童の声を拾う。友達と関わる時間を設定する。

45分の中に様々な活動を取り入れる。

○板書したとおりにノートに書かせる。



構造化カードを用いた板書



追加問題

3 C小学校 通常学級における視覚に訴えた授業（10月7日）

第2学年3組 算数科学習指導案

平成27年10月7日（水）	2年3組	児童数 男子13名 女子12名 計25名	指導者 木南 真之介	本時 1 / 25
単元名	かけ算（1）			
本時のめあて	・新しい演算を知り、「1つ分の数」「いくつ分の数」の考えをとらえることができる			
本時の評価規準	【関・意・態】イラストから、全体の人数を求めようとした時、自分の考えを説明しようとしている。 【考え方】これまでの学習内容を活用し、自分の言葉で説明しようとしている。			

合理的配慮

もんだい
何人いるかな？
めあて
数えかたを考えよう。

1 課題把握・見通し

イラストを一瞬見せ、何があったか子どもたちに考えさせる。その際、1つの乗り物に何人のっているか、注目させる。
自転車の例をもとに、他の乗り物でも、何人乗りの何台分で求められるかを見通す。

もんだい
メリーゴーランドは、なんのっているんですか。

4 課題把握・見通し

メリーゴーランドのイラストを提示し、何人乗っているか、考えあえて間違いを修正し、自分のやりかたに疑問を持たせる。

・おぞうでさびしい！
・一台の人数がちがうとおぞうでさびしい！
・1台の人数と何台ぶんがわかれば！

5 自力解決

・どうしたら、これまでの本時の学習を用いて、全体の人数が考えられるか、考える。説明が得意な児童は、簡潔な説明ができるように促す。

2 自力解決

・ それぞれの乗り物が何人になったのか、その人数を考える。その考えかたをノート示していく。

3 共有

・ ある班は、児童の考えがまとまったことで、全体の人数は、求められること、話し合いの中で確認を共有する。

6 共有

・ 単純に何人乗りの何台分で求められない場合も、乗法のやり方があることを共有する。

まとめ

おなじ数が、いくつ分かでかぞえるとわかりやすい→かけざん

7 まとめ

同じ数のまとまりのいくつ分かを考えれば、求めやすいことを学習した時点で、新しい概念「掛け算」を示し、本時のまとめをする。



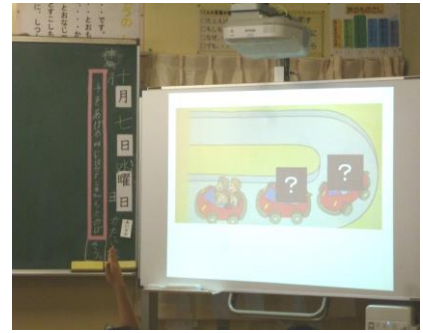
自転車
・ 2とびになる。
・ $2 + 2 + 2 +$
 $2 + 2 + 2 = 12$
・ 2人のりが2台ある！

ゴーカート
ひこうき
・ $4 + 4 + 4 = 12$ ・ $3 + 3 + 3 + 3$
= 12
4人のりが3台 3人のりが4台
人数がはぞうでさびしい



指導・講評

良かった点	課題
<ul style="list-style-type: none">○授業のテンポがよい。○学習への意欲が高い。○電子黒板の使用が、視覚教材として、とてもよかった。また、動きがあったことで、児童の注意の持続を図ることができた。○小刻みにめあてを提示することで、児童が、現時点でのめあては何かを考えることができた。○学習が苦手な児童が、挙手をすることができた。	<ul style="list-style-type: none">○発問が難しい。 →短い言葉で分かりやすい言葉を選ぶ。○「予想できますか」という発問は難しい。 →「何をどうする」といった発問に代える必要がある。○記憶を必要とする発問は、記憶することに課題のある児童にとっては難しい。 →記憶をたどれるような手立てを黒板等に残しておくといよい。



動きのある視覚教材

学習意欲・集中力（注意）の持続

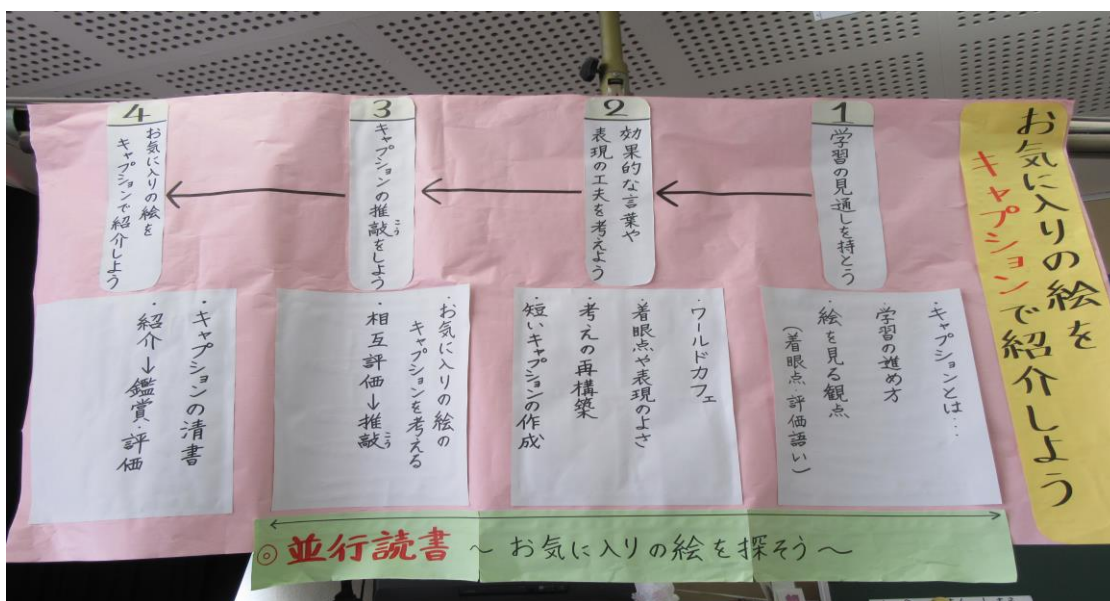
授業へのフィードバック

- 静と動のメリハリをつけ、リズムがあり、テンポのよい授業を組み立てていく。
- 視覚に訴える教材を活用する。
- 短い言葉がけ（＝わかりやすい）を心がける。
- ルール（学習規律）を明確化する。

4 D小学校 通常学級におけるイメージを持たせた授業（10月7日）

本学級では、主に国語の授業で合理的配慮を取り入れた。卒業を迎える6年生はこの後、文集を作成することになるが、その際、書く力を伸ばしておく必要がある。これは、配慮を要する児童のみならず、どの児童に対しても当てはまることであり、合理的配慮という観点からも必要である。次に、具体的実践を述べる。

(1) 単元の見通しをはっきりと持たせる。



上の写真は、国語「この絵 私は こう見る」という単元における単元計画である。本単元では、1枚の絵画に対して自分の表現でキャプション（解説文）を書くということをゴールに定めた。掲示を見るだけで、ゴールと各1時間に何を行うかが明確になっており、どの児童も安心して活動することができる。各活動においては、短時間で集中して取り組める環境づくりを心がけた。また、文章の読み取りではなく、絵から感じ取ることで、文の読み取りが苦手な児童もストレスなく活動に取り組むことができた。

(2) 話し合いの場を工夫し、多様な考えに触れさせる。

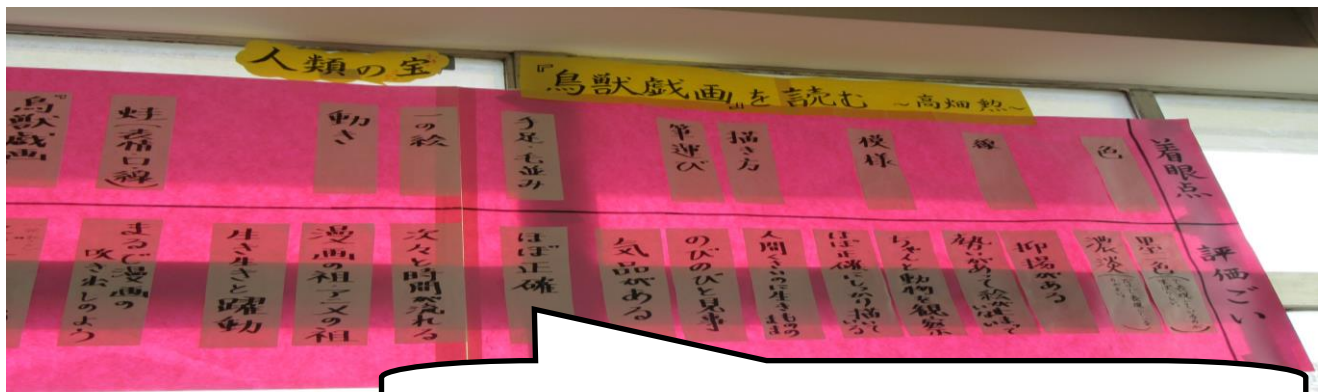
文章表現の苦手な児童にとって、「絵を見て感じることはあるが、どう表現していけばよいかわからない」という課題がある。この課題については、児童の考えを広げる場づくりが必要だと考えた。

そこで、「ワールドカフェ」を取り入れた。この活動は、模造紙をテーブルクロスに見立てて机の上に広げ、共通の題について和やかな雰囲気ですべて自由に思いを書き出す作業のことである。話し合いの際は、人の意見を否定せず自由な発想を書き出すルールとした。その結果、表現に悩んでいた児童も、多くの友達の考えに触れ、書き進めることができた。また、順調に書き出した児童も多様な考え方に触れ、さらに考えを深めることができた。このようなことから、「ワールドカフェ」は他教科にも有効な方法であると感じた。



(3) 見本や掲示物による意見の共有で安心感を持たせる。

児童にとっては、「表現のイメージはつかめたが文章に書き出せない」という課題もある。書くことを苦手とする児童は、通常学級においても多数在籍している。そこで、はじめに、教師の見本のキャプションを配り、イメージを持たせた。次に、「着眼点」「評価語彙」に項目を分け、どこに着眼し、評価しているかということを書き出せるよう、いくつかの絵や文で練習させた。そして、前単元の「鳥獣戯画を読む」でも、同じように活かしながら取り組んだ。



困った時に安心して見られる掲示物

最後に、写真のように、クラスに常に掲示することで「困ったら見てみよう」と声をかけ、児童に安心感を与えた。これらの取り組みから、全児童の文章を表現する力が高まったように感じた。最初は書くことが苦手であっても、正しい文を真似ることを繰り返し練習することで、次第に1つ1つの表現が自分のものとなった。

上の三つの取り組みを通し、日常における教材研究を丁寧に行うことによって、教師や児童生徒の困り感の1つ1つが明確になることが分かった。そして、通常学級における合理的配慮には、「先の見通しをしっかりと持たせること・見本によってゴールに実感(イメージ)を持たせること・困ったときに助けられる場所があること」が大切ではないかと感じた。

V まとめ

1 成果

本研究から、通常学級の中で授業理解を促す合理的な配慮において、次の点に留意することが、有効であると考えられる。

(1) 授業の構造化について

自閉症スペクトラム障害への治療教育でよく知られているのが、「構造化」である。授業理解に必要な「授業の構造化」には、「時間」と「内容」の二つの構造化がある。

「時間の構造化」とは、授業の始まりに、その時間に行う予定をすべて提示するという方法である。このことにより、すべての児童生徒にとって、見通しを持って活動することが可能になる。例えば、図1に示すように、マグネットシートを貼ったり、いつも黒板の同じ場所に板書をしたりすることで、児童生徒自身が今、何をすべきかを把握でき、見通しを持って安心して授業を受けることができる。また、安心して授業を受けることによって、進んで発表したり、課題に対して深く考えたりすることができ、より理解が深まると考えられる。見通しがない状態では、ノートに何を書くか分からなかった児童生徒が、見通しを示すことによって、今、何を考えるべきかを把握しノートに自分の考えを書くことができた。表1は、その変容を示したものである。

次に、「内容の構造化」とは、実践例1に示した「文ちゃんカード」のように、観点を定めることで、文章を整理して書くことができるようになる支援方法である。これを行うことによって、児童生徒は書く内容が整理されわかりやすい文章を書くことができるようになった。表2は、その変容を示したものである。

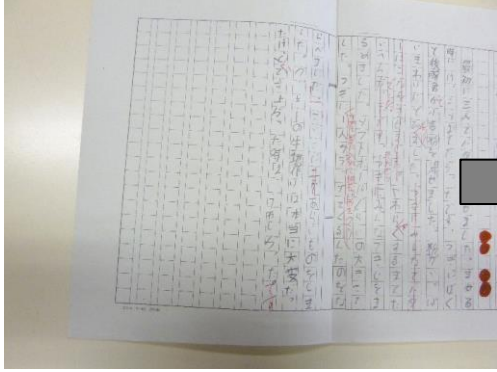



図1 黒板掲示

表1 時間の構造化におけるノートの変容

	時間の構造化前	時間の構造化後
ノートの成果		

表2 内容の構造化における作文の変容

	ビフォー	アフター
文ちゃんカード使用の成果		

(2) 情報伝達の工夫について

特別支援学級では、障害の特性から視覚的な手がかりを提示することで、授業の理解を深めている。この手法は、通常学級でも「消えないで残る、確認できるもの」として、学習効果を高めていくと考えられる。本研究では、電子黒板を用いることによって、注意を持続することができた。

また、国語の授業では、授業で使った掲示物を教室に常に貼っておくことで、困ったときに児童生徒自身が振り返られるようになった。ただ、掲示物や視覚刺激の過多は、特に自閉症スペクトラム障害や ADHD 傾向の児童生徒にとって、混乱や注意の散漫を引き起こすことにもつながるので、使い方には留意する必要がある。

さらに、教室内に存在する「音」、つまり「聴覚刺激」をいかにコントロールして、刺激の少ない環境に整えられるかが、刺激に反応しやすい児童生徒への配慮につながる。例えば、図2にあるように、机や椅子の足にテニスボールをつける工夫によって、移動の際の音を軽減することができる。また、教師が「静かな落ち着いた話し声で話す」「話す速さに注意する」の二点を意識することで、落ち着いた学習環境を生み出すこともできる。

他にも、「必要最小限の言葉」で「1回につき、1つの指示にする」など発問を精選し、「文と文の間に一呼吸置く」など分かりやすい発話を心がけることによって、余分な音を減らし、静かな環境を作ることができ、落ち着いた環境が成り立つ。



図2 音刺激軽減の工夫

2 課題

私たち教師は、様々な合理的配慮を生み出し、提供する立場にある。合理的配慮がなぜ必要かは、児童生徒たちだけでなく、私たち教師もリラックスした状態で自分らしく授業をす

ることができるからである。私たち教師が、一社会人として働きやすい、仕事の能率が上がりやすい環境を求めると同様、児童生徒たちも学習しやすい環境を求めているのである。授業での合理的配慮というと、教材教具を開発し、児童生徒にわかりやすく教えることや、刺激の少ない教室にすると考えられがちである。しかし、それは、一つの手立てに過ぎない。学校は、時間ごとに担当する教師や、指導を受ける児童生徒が変わる。したがって、クラスごと、授業ごとに合理的配慮の形は変化するものであり、答えは一つではない。まずは、個々の教師が、合理的配慮をすることによって、教えやすい環境を作り、それを教職員組織で共有し、模倣し合い、より児童生徒の実態に合わせていく、そのような雰囲気作りを大切にしていきたい。こうした合理的配慮によって、教師自らのモチベーションも上がり、児童生徒たちの意欲に影響し、学力向上にもつながっていくであろう。

現在、こうした合理的配慮は、まだ通常学級に浸透しきれていないのが現状である。児童生徒の認知の特性や個別支援計画の書き方、板書や掲示物の構造化、言葉がけ等の合理的配慮について、ほとんど共通理解が図られていないためである。今後は、校内研修を通じて、特別支援教育の立場からの発信も必要になってくるであろう。

さらに、通常学級の担任は、小学校では基本的に全教科を担当することになり、時間的な制約が大きい。そのため、個別の配慮に重点を置きすぎると、物理的な負担が大きくなってしまう。しかし、どうしても授業に追いつけない児童がいることも確かである。ここで、廣瀬は「通常学級で実施する合理的な配慮の在り方は、担任の負担感も少ない、それでいて『理にかなった配慮』を心がけることが大切である」（2016）と述べている。本研究における教材作成にも、時間を要するものがあり、教師の負担軽減を考えると、まだまだ改善の余地があるであろう。

引用文献・参考文献

- ・小貫悟（2013）通常学級における授業改善 ―すべての子に分かる授業の構築― LD研究第22巻第2号 132-140
- ・文部科学省（2010）中央教育審議会 特別支援教育の在り方に関する特別委員会
- ・阿部利編（2016）通常学級のユニバーサルデザインと合理的配慮 金子書房
- ・東京日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）通常学級での特別支援教育のスタンダード 東京書籍

VI 資料

（通常学級に活用できる合理的配慮）

教育内容に関する合理的配慮

	ASD	LD	ADHD
学習上または生活上の困難を改善・克服するための配慮	<p>自閉症の特性である「適切な対人関係形成の困難さ」「言語発達の遅れや異なった意味理解」「手順や方法に独特のこだわり」等により、学習内容の習得の困難さを補完する指導を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 動作等を用いて、意味を理解する。 繰り返し練習し、道具の使い方を正確に覚える。 	<p>読み書きや計算等に関して、苦手なことをできるようにする、別の方法で代替する、他の能力で補完するなどの指導を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の形を見分けることができるようにする。 パソコン、デジカメ等の使用 口頭試験による評価 	<p>行動を最後までやり遂げることが困難な場合には、途中で忘れないように工夫したり、別の方法で補ったりするための指導を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分を客観視する。 物品の管理方法の工夫 メモの使用
学習内容の変更・調整	<p>自閉症の特性により、数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする場合の学習内容の変更・調整を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解の程度を考慮した基礎的・基本的な内容の確実な習得 社会適応に必要な技術や態度を身につけること 	<p>「読む」「書く」等、特定の学習が難しいので、基礎的な内容の習得を確実にすることを重視した学習内容の変更・調整を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟のための時間を別に設定 軽重をつけた学習内容の配分 	<p>注意や集中の持続が苦手であることを考慮した学習内容の変更・調整を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容を分割し、適切な量にする。

教育方法に関する合理的配慮

	ASD	LD	ADHD
情報・コミュニケーションおよび教材の配慮	<p>自閉症の特性を考慮し、視覚を活用した情報を提供する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真や図面、模型、実物等の活用 補助具や扱いやすい道具の効果的な利用 <p>★写真・図のラミネート</p>	<p>読み書きに時間がかかる場合、本人の能力に合わせた情報を提供する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読みやすくするために体裁を変える。 拡大文字を用いた資料の提示 振り仮名をつける。 音声やコンピュータの読み上げ 聴覚情報を併用しての伝達 <p>★振り仮名</p> <p>★原稿用紙の種類</p> <p>★個に応じたワークシート</p>	<p>聞き逃しや見逃し、書類の紛失等が多い場合には、伝達する情報を整理する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲示物の整理整頓、精選 目を合わせての指示 メモ等の視覚情報の活用 静かで集中できる環境づくり <p>★ふせんの活用</p> <p>★教室前面掲示の工夫</p>


<p>学習の機会や体験の確保</p>	<p>自閉症の特性により、実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難な場合があるので、体験の機会を多く設定する。また、言葉の指示だけでは行動できないことがあるため、学習活動の順序が分かりやすくなるよう、活動予定表を活用する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキル <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動予定表 	<p>身体感覚の発達を促すために、活動を通じた指導を行う。また、活動内容を分かりやすく説明して安心して参加できるようにする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を大きく使った活動 ・さまざまな感覚を同時に使った活動 	<p>好きなものと関連付けて、興味・関心が持てるように、学習活動の導入の工夫を行う。また、危険防止策を講じた上で、本人が直接参加できる体験学習を行う。</p>
<p>心理面・健康面の配慮</p>	<p>情緒障害のある児童生徒等の状態（情緒不安や不登校、ひきこもり、自尊心や自己肯定感の低下等）に応じた指導を行う。また、自閉症の特性により、二次的な障害として、情緒障害と同様の状態が起きやすいことから、それらの予防に努める。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的対応や医師の診断を踏まえた対応 	<p>苦手な学習活動があることで自尊心が低下している場合には、成功体験を増やしたり、友達から認められたりする場面を設ける。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の理解等に時間がかかることを踏まえた時間の確保や延長 ・主要な学習活動への重点的な時間配分 ・受容的な学級の雰囲気作り ・困ったときに相談できる人や場所の確保 <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">★ソーシャルスキル</p>	<p>活動に持続的に取り組むことが難しく、不注意による紛失等の失敗や衝動的な行動が多いので、成功体験を増やし、友達から認められる機会を増やす。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な活動のための時間の確保 ・物品管理のための棚等の準備 ・良い面を認め合えるような受容的な学級の雰囲気作り ・感情のコントロール方法の指導 ・困ったときに相談できる人や場所の確保 <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">★クールダウンできる場所の確保</p>

支援体制に関する合理的配慮

	ASD	LD	ADHD
<p>専門性のある指導体制の整備</p>	<p>自閉症や情緒障害を十分に理解した専門家からの支援や特別支援学校のセンター的機能、及び自閉症・情緒障害特別支援学級、医療機関等の専門性を積極的に活用し、自閉症等の特性について理解を深められるようにする。</p>	<p>特別支援学校や発達障害者支援センター、教育相談担当部等の外部専門家からの助言等を活かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等、校内の資源の有効活用を図る。</p>	<p>特別支援学校や発達障害者支援センター、教育相談担当部署等の外部専門家からの助言等を活かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等、校内の資源の有効活用を図る。</p>

<p>子ども、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮</p>	<p>他者からの働きかけを適切に受け止められないことがあることや言葉の理解が十分ではないことがあること、方法や手順に独特のこだわりがあること等について、周囲の子どもや教職員、保護者への理解啓発に努める。</p>	<p>生まれつき得意なことや、努力によっても変わらない苦手なこと、特定の感覚が過敏な場合があること等のさまざまな個性について、周囲の子どもや教職員、保護者への理解啓発に努める。</p>	<p>ADHDの特性として、不適切と受け止められやすい行動には、本人なりの理由があることや、生まれつきの特性によるものが原因であること、また、危険な行動等の安全な制止や防止の方策等について、周囲の子どもや教職員、保護者への理解啓発に努める。</p>
<p>災害時等の支援体制の整備</p>	<p>自閉症や情緒障害のある子どもは、災害時の環境の変化に適応することが難しく、極度に混乱した心理状態やパニックに陥ることを想定した支援体制を整備する。</p>	<p>指示内容を素早く理解し、記憶することや、掲示物を読んで避難経路等を理解することが難しい場合等を踏まえた避難訓練に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> • 具体的でわかりやすい説明 • 不安感を持たずに行動できるような避難訓練の持続 	<p>落ち着きを失ったり、指示の中で動いてしまったりする傾向を踏まえた避難訓練に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> • 項目を絞った短時間での避難指示 • 行動を過度に規制しない範囲での見守りやパニックの予防

施設設備に関する合理的配慮

	ASD	LD	ADHD
校内環境のバリアフリー化	<p>自閉症の特性を考慮し、備品等をわかりやすく配置したり、動線や目的の場所を視覚的に理解したりできるようにする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真入りの案内表示 		
発達、障害の状態および特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	<p>衝動的な行動による怪我等が見られることから、安全性を確保した校内環境を整備する。また、興奮が収まらない場合を想定し、クールダウンのための場所を確保するとともに、必要に応じて、照明や音といった過敏性を踏まえた校内環境を整備する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> カーテンやパーテーション等の利用 テニスボールの利用（椅子の足用） 	<p>類似した情報が混在していると、必要な情報を選択することが困難になるため、不要な情報を隠したり、必要な情報だけが届くようにしたりできるように、校内の環境を整備する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 余分なものを覆うカーテンの設置 写真や絵、図を使用した視覚的にわかりやすい表示 	<p>注意や集中が難しいことや、衝動的に行動してしまうこと、落ち着きを取り戻す場所が必要なことを考慮した施設・設備を整備する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 余分なものを覆うカーテンの設置  <ul style="list-style-type: none"> 照明器具等の防護対策 危険な場所等の危険防止柵の設置 静かな小部屋の設置
災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	<p>災害等発生後における環境の変化に適応できない心理状態（パニック等）を想定し、外部からの刺激を制限できるような避難場所、及び施設・設備を整備する。</p>		<p>災害等発生後、避難場所において落ち着きを取り戻す場所が必要なことを考慮し、静かな小空間等を確保する。</p>